

◎今週の御言葉「弟子の道（ルカによる福音書9章57～62節）

「するとイエスは彼に言われた。“だれでも、手を鋤につけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくありません”」（9:62）

仲森文穏

○今日の聖書に3人の人々が出てきます。最初の人は、「イエス様に従ってどこへでも従います」と言いました。大した意気込みですが、自分の決意や覚悟がどんなに頼りないものか、気付いていません。イエス様は「人の子には枕する所もない」と彼に真の覚悟を求めておられます。

○次の人はイエス様の招きに対して、「まず父を葬りに行かせてください」と答えています。葬りの式ほど、この世で大事なしきたりはないでしょう。葬儀はこの世を代表するものです。彼は「まず」と言っています。それが終わったら、きっと次の用事を作るのではないか。イエス様は「死者の事は死者に任せよ」と仰り、イエス様に従って生きることよりも、この世に振り回されて生きることを戒めておられます。

○第3の人はイエス様の招きに対して、「家族にいとまごいをしたい」と言います。列王上19:19以下で同じ申し出をしたエリシャに、預言者エリヤは「行ってきなさい」と答えています。しかし、イエス様は「誰でも手をすきにかけてから後ろを見る者は神の国にふさわしくない」と答えておられます。この道を行くと決めたら、もう後ろをふりかえらない。神様と自分の「縦の関係」をまっすぐにして、神様が全てを導き、道を備えてくださると信じ、前を向いて生きることが弟子の道なのです。

○勇ましいことを言いましたが、私たち一人ひとりは弱いです。弟子の道を歩くには、イエス様のとりなしの祈りが必要です。イエス様は十字架にかけられながら「父よ、彼らを許したまえ、彼らは何をしているのか知らないのです」と祈られました。この祈られている「彼ら」の中に「私」も含まれている、と気付けばいいのです。①傲慢な思いを碎かれ、②この世に埋没せず、③キリストを前に見る、これらの弟子の道はイエス・キリストの「執り成しの祈り」なくては歩めるものではありません。私たちの頑張りがすべてではないと肝に銘じ、キリストの弟子として生きていく者でありたく思います。